



(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

①健康寿命の延伸及びQOLの向上の取組み

・ヒューマンデータ、特に不特定多数の健康者の日常データの取得(3)、及びそのプラットフォーム化(4)

②来阪外国人対応

・公共交通利用者へのリアルタイムの情報提供(運行状況、混雑状況、乗り継ぎ案内など)(1)(2)

③新産業育成

・ヒューマンデータ、特に脳情報などのデータの取得(3)、及びそのプラットフォーム化(4)

④防災対策

・デジタルサイネージによる効果的な被災情報の伝達(1)(2)  
・監視カメラによる安心・安全性の向上(混雑状況・人流把握(1)、災害時の避難状況把握(2))  
・災害に強い安定的な公衆Wi-Fi整備(7)  
・ドローン技術による迅速な救助(6)  
・環境と防災のトータルエネルギーデザイン(中圧ガス+コージェネレーションの導入等)(2)  
・データ連携やAIの活用による管理運営業務の効率化・最適化(6)

⑤環境保全

・再生可能エネルギーの導入とエネルギー活用最適化(2)  
(国家戦略特区の規制緩和による帯水層蓄熱利用技術の活用)  
○SDGs達成に向けた技術のショーケース(6)  
・域内ゼロエミッションに向けたRE100(消費電力を100%再生可能エネルギーで調達)  
・帯水層蓄熱システムや水素エネルギーなど、最先端技術の導入  
・大型蓄電池の導入やNLABと連携した次世代電池の開発  
・夢洲メガソーラー等の再生可能エネルギーを活用した、電気自動車(EV)や燃料電池自動車(FCV)等の導入  
・創蓄省エネとAIやIoTで総合的に融通するエネルギーマネジメント  
・気象データ及びシミュレーション技術を活用した効果的な建物配置や連続した緑陰などグリーンインフラ整備、ICTを活用した熱ストレスを軽減するルートへの案内など

(4) 解決の方向性(イメージでも可)

①健康寿命の延伸及びQOLの向上

・ヒューマンデータの収集・活用による新技術の開発

・都市基盤(歩道等)のバリアフリー化の推進

・Maasによる交通サービスの一括提供、自動運転の導入、公道(歩道)の低速走行(グリーンスローモビリティの導入)、階段など段差の昇降が可能  
な電動車椅子の自動運転化に係る技術

②国内外から人を惹きつける都市(来阪外国人対応)

・交通アクセスの多言語化、交通ナビゲーションの精度向上による移動の円滑化

・インタラクティブサイネージの導入、画像認識システムによる多言語対応

・キャッシュレス化(支払いのスマート化)の推進、食事情報の提供(ハラルなど)

③新産業育成

・ヒューマンデータの収集・活用による新産業の育成、新技術の開発

④-1安全・安心の確保(防災対策)

・地震や降雨情報からAIの活用による被害予測の導入による被害予測エリア滞在者への情報提供

・災害情報(多言語)、避難情報(避難ルートやバリアフリールート含む)、帰宅情報、情報発信(SNSなど)等の災害時情報の提供発信

・現場状況(避難ルートの滞留、一時避難地の状況)の把握、一斉帰宅の抑制対応

④-2安全・安心の確保(インフラ施設の老朽化対策)

・ドローン等による点検施策の実施

・ビックデータの活用による維持管理費の低減

・AI等と活用した施設データの収集管理、維持管理時期の提案

⑤環境先進都市(域内ゼロエミッションに向けた取組み)

・渋滞対策(スマートパーキングの導入、交通量の変化に応じた最適な信号現示を行うAIを活用した交通制御技術)

・スマート照明の導入

・自立分散型電源の導入とエリア内の電力・熱及び水素等をAIやIoTで総合的に融通

(5) その他

・うめきた2期区域の開発(2024年夏に一部まちびらきを予定)では、「みどりとイノベーションの融合拠点」をまちづくりの方針としており、スマートシティの実現を目指している。具体的には、来街者の日常活動における「ヒューマンデータ」を研究開発及び新産業創出に活用可能なものとして整備することで、地区をイノベーション創出拠点とすることを目指している。また、同地区内の防災公園内では、帰宅困難者対策への人流データの活用や維持管理費の最適化のための情報プラットフォームの構築、帯水層蓄熱利用や下水熱利用などの再生可能エネルギーの導入について具体的に検討する予定である。

・2025年万博の会場予定地でもある夢洲では、国際観光拠点の形成にむけたまちづくりの目指すべき方向性について、平成29年8月に「夢洲まちづくり構想」として取りまとめた。構想では、『最先端技術の活用などを図りながら生活の質(QOL)を更に高める技術の創出や質の高い空間・サービスを体験できる滞在環境を2025年の万博開催のムーブメントを活かして推進』『持続可能性(Sustainable)』『安全安心(Secure)』『ショーケース(Showcase)』を踏まえたゼロエミッションのまちづくり、『ICTの活用により、効率的・効果的なエリアマネジメントを推進』などを掲げている。また、万博誘致提案書(ビッドシエ)に記載の帯水層蓄熱利用に向けて具体的に検討する予定である。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
都市計画局企画振興部 うめきた整備担当	池田 亮	06-6208-7838	ry-ikeda@city.osaka.lg.jp